

論点整理にあたっての基本的考え方（案）

これまでの意見を踏まえ、コロナ後のグローバル社会を見据えた人への投資の推進にあたっての現状認識や基本的な考え方として、以下のように整理してはどうか。

1. 留学生の受入れ・派遣や教育の国際化を巡る現状

(1) 留学生の受入れ

- ・ 増加する世界の留学生数（160 万人（2000）→560 万人（2020））
- ・ 諸外国は留学生受入れを戦略的に実施（英国・フランス・ドイツ・オーストラリア）
- ・ 留学生受入れを重要な貿易・外貨獲得手段として位置付ける国も存在（英国・オーストラリア）
- ・ コロナ禍で日本の外国人留学生の受入れは減少（31 万人（2019）→24 万人（2021））
- ・ OECD 諸国と比較して博士・修士・学士課程における留学生在籍割合はそれぞれ 20%、10%、3%と低い状況
- ・ 卒業後の就職率は約 4 割程度

(2) 日本人学生の派遣

- ・ 海外への学位取得目的の留学者は中国・インドが大きく伸長する一方、停滞する日本人の留学（フランス・ドイツ・韓国は、人口千人あたり 1.5 人に対し、日本は 0.5 人に留まる）
- ・ 日本人学生の留学（大学等が把握しているもの）は約 7 割が 1 カ月未満の短期留学
- ・ コロナ禍で日本人学生の派遣は激減
- ・ 内向き志向や経済的理由、留年や就職への不安による留学の停滞
- ・ 高校生の留学における地方格差

(3) 教育の国際化

- ・ 英語による授業を実施する大学は4割
- ・ 日本の高等教育は海外から評価を十分に得られていない
- ・ 日本の子供の養育環境は高度外国人材から評価を十分に得られていない
- ・ インターナショナルスクールの市場は拡大傾向
- ・ 米国、英国、フランスなどの大学は多くの海外キャンパスを設置

2. これまでの成果と課題

(1) 留学生30万人計画の検証結果

- ・ 遠隔・オンラインの利点も活かしつつ、「実留学」を引き続き推進していくことが重要
- ・ 受入れ数を重視するこれまでの視点から、より出口（アウトカム）に着目して受入れの質を図る視点に転換
- ・ 日本人学生の海外留学の促進も含めて、学生の派遣・受入れの両面で質の高い国際流動性を高めていくことが重要

(2) 「高等教育を軸としたグローバル政策の方向性」の策定

- ・ 2027年を目途に激減した外国人留学生・日本人学生の留学を少なくともコロナ禍前の水準に回復

3. 留学生の受入れ・派遣や教育の国際化の意義

グローバル社会において、外国人留学生の受入れや日本人学生の派遣、教育の国際化は、日本社会全体の成長をけん引し、国際競争力を強化する上で必要不可欠

(1) 外国人留学生の受入れの意義

- ①教育研究力の強化（教育研究の活性化、国際競争力の向上、国際的なネットワークの構築）
- ②外交、人道的な意義（国際社会への知的国際貢献、親日派・知日派の人的ネットワークの育成、相互理解と友好親善、国際社会でのプレゼンス向上、避難民支援）

- ③留学生の定着による高度専門人材の確保
(我が国の経済社会の活性化、一層の国際化)
- ④多文化共生社会への変革促進
(多様な価値観が混ざり合うことによる新たな価値やイノベーション創出、多様性と包摂性のある開かれた活力ある社会の形成)

(2) 日本人学生の派遣の意義

- ①我が国をけん引する人材の育成 (世界を舞台に活躍する人材から地域の成長・発展を支える人材まで厚みのある多様な人材の育成、異文化理解や多様な価値観への共感力、コミュニケーション能力、国際的素養の涵養、日本に対する理解の深化、アイデンティティの確立)
- ②幅広い人的ネットワークの形成
- ③外交的な意義 (国際社会でのプレゼンス向上、相互理解と友好親善)
- ④国際的に開かれた活力ある社会の実現

(3) 教育の国際化の意義

- ①大学の国際競争力の強化
(多様な学生や研究者が切磋琢磨できる環境の醸成による教育環境の活性化、イノベーション創出)
- ②国際頭脳循環の実現、国際研究ネットワークの構築
- ③多様性、包摂性のある地域・社会の構築に向けた教育環境の整備

4. 今後の方向性

(1) 外国人留学生受入れにあたっての考え方

- ①基本的方向性
 - ・ 優秀な外国人留学生の受入れ促進
 - ・ 多様な価値観が混ざり合う環境創出のための受入れ地域の多様化
 - ・ 日本語を覚え、日本語で学び、日本語で働く一人一人のキャリアパスとしての位置づけ
 - ・ 教育研究及び生活環境のソフト・ハードを併せた質及び魅力の向上

- ・ 留学時の隘路解消（情報提供の強化や各種手続きの簡素化）
- ・ 卒業後の定着に向けた企業・社会での受入れや起業の推進、日本と母国の懸け橋となる人材の受入れ促進

②今後受入れを促進する優秀な外国人留学生の人材像

- ・ 博士・修士をはじめとするイノベーションを創出する人材
- ・ 社会の様々な場面で活躍する高度専門人材
- ・ 国際頭脳循環に参入する研究人材
- ・ 日本のよき理解者として母国との懸け橋となる人材

(2) 日本人学生の派遣にあたっての考え方

①基本的方向性

- ・ 海外大学・大学院での日本人留学生における中長期留学者の数と割合の向上（高校段階、中短期留学（特に学期単位での単位取得）、学位取得までの段階的な取組促進、前提としての教員の指導力強化）
- ・ オンラインの特性（心理面でのハードル下げ、費用・時間面での利点、複数国・地域との同時交流）を生かした実留学への契機としての取組促進
- ・ 留学促進の隘路解消（情報格差の是正、ブランド力強化や寄附を含めた経済支援の充実、単位互換や授業料相互免除等の促進、英語教育・英語によるプログラムの充実、社会との接続強化）
- ・ 国際頭脳循環に参入するための博士人材等派遣促進
- ・ 社会人の海外大学院への留学推進

②海外派遣を通じて育成を目指したい人材の姿

- ・ 異文化を理解して相手の立場を理解する共感力、豊かな語学力・コミュニケーション能力、社会課題を自分事として捉える主体性・積極性、多様な人を巻き込む行動力等を身に付けて様々な分野でグローバルに活躍できる人材
- ・ エネルギー・食料問題・安全保障など地球規模の課題から我が国や地域が抱える課題を発見し、解決する人材
- ・ 国際頭脳循環に参入し、各分野をリードする研究人材

(3) 教育の国際化にあたっての考え方

①基本的方向性

- ・ 国際的な学生、研究者、大学間交流の活性化など国内大学等の国際化の推進
- ・ 高度専門人材を受け入れるための子供の教育環境の充実、日本語教育機関の質の向上
- ・ 日本型教育の海外展開

②目指したい教育の国際化の姿

- ・ 多様な背景を持った者が集い、多様な価値観が混ざり合う環境が創出される教育研究環境
- ・ 高度専門人材が安心して来日できる子供の教育環境
- ・ 日本の教育の海外展開による国際プレゼンスの向上、親日層の拡大、相互理解促進、留学生受入れ推進、関係国とのパートナーシップ構築

5. 考えられる指標

(外国人留学生の受入れ関係)

- ・ 外国人留学生の数
- ・ 外国人留学生における学位取得を目的とする者の数と割合
- ・ 全学生数に占める留学生の割合
- ・ 留学生の卒業後の国内定着率
- ・ 外国人留学生の満足度

(日本人学生の派遣関係)

- ・ 日本人留学生における学位取得を目的とする者の数と割合
- ・ 中短期の留学者数

(併せて、実際に学位を取得した者の割合や、中短期留学で語学力向上や長期留学につながっているかどうかの把握を国費留学生について実施)

- ・ 高校段階での留学者数